



藤田医科大学 (一般後期)

英語



第1問

問1	問2	問3	問4	問5	問6
(4)	(2)	(1)	(2)	(4)	(1)

第2問

問1	問2	問3	問4
(1)・(3)	(3)・(5)	(7)・(3)	(7)・(3)

問1 You might as well let him go.

問2 Though members have changed, our philosophy never has.

問3 She is this prefecture's first female governor ever.

問4 Why did you rent that large a car?

第3問

問1	問2	問3	問4
(2)	(3)	(4)	(3)

第4問

問1	問2	問3	問4
(2)	(2)	(4)	(3)

第5問

問1	(i) 腐敗により皮膚の各部分が緑色に変色する
	(ii) 腹部の中で細菌が急速に増殖して、ガスを放出する。
	(iii) 死体が膨張し、悪臭を放つ。
	(iv) 緑色を帯びた黒い欠陥が皮膚のあちこちに見えてくる。
	(v) 死体の膨張がおさまりに、黒色腐敗と呼ばれる過程で、死体の臓器や組織が軟化する。
問2	血液やその他の液体を死体から抜き、細菌による死体の分解を防ぐために、死体の静脈から防腐液を入れる。
問3	<p>①暑い場所に死体がある場合、腐敗・分解の速度が速くなる。</p> <p>②死体に施される防腐処理の質によっても、死体の分解の速度に影響が生じる。</p> <p>③棺が酸性度の高い土壌に埋められた場合、棺が朽ちるのが速くなり、死体が虫などにさらされて、分解の速度が速くなる。</p> <p>④蛆は脂肪組織よりも筋肉組織を好むため、屋外の場合、脂肪の多い人の死体の方が、最初は分解が速くなり、後になるにつれて分解の速度が遅くなる。</p> <p>⑤死の前に化学療法や抗生物質の投与を受けていた場合、分解の過程に関わる細菌が殺傷されてしまうので、死体の分解の速度に影響が出る。</p> <p>⑥棺の裏地が吸湿性に富む物質の場合、乾燥させることで死体のミイラ化が速くなるのに対し、裏地の物質に水分が含まれる場合、死体はその水分を帯びるため、分解が速くなる。</p> <p style="text-align: right;">※上記の中から解答する。</p>
問4	【え】

第6問

(1)	<p>Mainly thanks to an American NGO group, which has been trying to eradicate [eliminate] the disease, however, the number has decreased to only six cases as of August this year.</p> <p>[別解] Thanks to efforts made mainly by an American NGO group to get rid of the disease, the number has fallen to just six this year as of Augusts.</p> <p>[*別解] But that figure has fallen to just six this year as of August thanks to efforts led by a U.S. nongovernmental organization to eradicate the disease.</p>
(2)	<p>The mortality rate of the disease is low, but the severe [sharp] pain persists for a long time, making it impossible for the patients [sufferers] to work or do housework.</p> <p>[別解] Though the mortality rate itself is low, the acute pain lasts so long that the infected are unable to work or do housework.</p> <p>[*別解] While the death rate for the disease is low, the extreme pain is long-lasting, leaving the patient unable to work or do household chores.</p>
(3)	<p>Even after new [safer] wells were built, many people in the region [many inhabitants / many residents] didn't use them, saying that the water in the pond (which) they were used [accustomed] to drinking from tasted better.</p> <p>[*別解] Even after wells were built, many residents did not use them, saying that the water in the pond they were used to drinking from tasted better.</p>

※[*別解]はすべて出典元の原文である。

講評

問題構成、記述量のボリュームなどは、今年の前期と同様であった。

第1問：文法4択問題。例年よりは癖のあるものも含まれていたが、少し穏当な出題になった印象。とはいえ、通常の受験問題と比較すると、指導内容に含まれているが出題頻度が低めの項目の出題があった。

第2問：整序問題。例年と同程度の難易度。問2の省略構文を正しく理解できるかということや、問3のfirstやonlyを強調する副詞everの用法（the first [only] **名** ever という語順）、問4の副詞のthatの使い方（that large a car）を、副詞soをヒントにして解くことができたかどうか（so large a car）など、受験生が少し困惑するであろう問題が出題されていた。


第3問：“Penguins at a Japanese aquarium are being fed cheaper fish — and they aren't happy”が出典元のニュース記事で、それをインタビュー形式に変換して出題された。内容は読みやすく、標準レベル。

第4問：“Manufacturing process produces better, cheaper cathodes for lithium-ion batteries”が出典元のニュース記事であった。こちらも、各選択肢の消去に悩ましいものもなく、標準レベルと言える。

第5問：“How long does it take for a body to decompose?”が出典元のニュース記事であった。前期試験の歴史学テーマの出題と比べると、理系である医学部受験生には取り組みやすい内容だったと思う。英文自体の読み取りはさほど難しくないが、読み取った内容を正確に日本語で記述する力が要求されている。

第6問：『Guinea worm disease』についての英文中で、日本語にされた部分を英作文する問題であった。全体としては、今年の前期試験よりやさしくなった。合格するには、目標スコアは65%程度。


渋谷校

 0120-142-760

受付9時～22時（日曜日のみ19時まで）

東京都渋谷区桜丘町6-2

名古屋校

 0120-148-959

受付9時～22時（日曜日のみ19時まで）

名古屋市中村区名駅2-41-20
CK18名駅前ビル2F・6F

大阪校

 0120-142-767

受付9時～22時（日曜日のみ19時まで）

大阪府吹田市広芝町4-34
江坂第1ビル3F

メルマガ登録（無料）で全教科閲覧できます！
右のQRコードまたはHPからメルマガ登録ができます。



■医歯専門予備校 MELURIX学院

MELURIX